



新型コロナ対策と豪雨災害対策で約25億円

24日に議会運営委員会が開催され、12月議会の日程は1日に開会し21日まで閉会と決定。一般質問は8日から10日、委員会は15日から17日を予定。補正予算案も発表されました。予算の概要をみると、今回の補正額は25億11051千円で、令和2年度の総額は515億60037千円となります。

補正予算の主なものは新型コロナ対策に2億64889千円、豪雨対策は19億68949千円(総額で49事業48億5959千円)となっています。新型コロナウイルス感染症対策では、1階フロア階段撤去工事費924万円の再度の提案について、市はパブリックコメントを行い、市民から意見を募集しています。意見件数は204件(210名分)撤去に賛成する意見は1

は99人増加しています。学校からのサポート支援員の要望は76人から80人、4人の増員要望です。配置数は2人増えただけです。決算審査委員長報告は増員を要望しています。水上ステーションなどの整備費用や補助費用23632千円、農業災害は農地・農業用施設で100件3億73300千円、林業関係は87路線310カ所5億31198千円、公共土木施設災害復旧事業では道路63件、河川37件、橋梁4件で9億5074千円です。徳瀬橋(南友田町)の改修も来年の雨期前の完成が急がれます。

7月豪雨災害復旧事業では、被災した小野川自然プール、鯛生金山観光施設、三隈川の

12月議会補正予算案発表

増える対象児童生徒に支援員不足

特別な支援が必要な児童生徒の在籍する学校に対し、児童生徒の状況に加え、教員の配置状況等、学校全体の支援体制を考慮したうえで必要なサポート職員を配置する事業です。特別な支援が必要な児童生徒への個別対応・学習理解の促進を図るとともに、危険行動や学校外への飛び出しなど、急変に対応する子どもへの安全対策をはかるものです。

特別支援サポート事業

平成29年度と31年度の3年間の変化を比べると対象児童

		小学校 (18校)	中学校 (12校)	合計 (30校)
平成29年	対象児童	206	67	273
	学校からの要望	53	23	76
	配置数	30	14	44
平成30年	対象児童	254	77	331
	学校からの要望	54	25	79
	配置数	31	13	44
平成31(R1)年	対象児童	298	74	372
	学校からの要望	58	22	80
	配置数	33	13	46

市教委は増加していることについて、各学校が対象者を積極的に把握して報告した結果であると述べました。



通行止めが続く徳瀬橋、災害直後